

線ニ云フ山歸來ノ葉ト食鹽トナ適宜ニ取リ手ニテ揉ミ
ナガラ刺衝サレタル瘡部ニ其液ヲ摺リ付クレバ一時痛
痒ノ苦ヲ免カレ再三行ヘハ極メテ功アリト或人ハ語ラ
レリ

● *Lühdorfa puziloi*, Ersch. ニ就テ

附 吉田平九郎翁略傳 伊藤篤太郎

前號ノ本誌ニ掲載セル、名和氏ノ「岐阜蝶ノ實驗」ト題ス
ル一篇ハ、之ヲ動物學ヨリ觀察スル片ハ、從來本誌ニ登錄
セル論文中、最モ價值アル者ノ一ナリト、余ハ斷定スルナ
憚カラザルナリ。其故タルヤ、凡ソ動物學ノ最モ貴重トス
ルトコロハ、實物研窮(original investigation)ヨリ得タル結
果ニ在リ。而シテ名和氏ノ説ハ、動物系統學上、本邦所産鱗
翅蟲類ノ稀品ニ就テ、氏ガ數年ニ涉レル、實驗ノ結果ヲ世
ニ報告シタルヲ以テナリ。

扱 *Lühdorfa puziloi* ノ形狀及ビ發育ニ關シテハ、前陳名
和氏ノ詳細ナル圖説アレバ、再ビ茲ニ之ヲ贅セズ。唯氏ノ
未ダ説キ及ボサバリシ、一二ノ事實ヲ記載シテ、同好諸君
ノ參考ニ供シ、以テ名和氏ガ實驗説ノ拾遺ト爲サント欲

Lühdorfa puziloi, Ersch. ニ就テ 附吉田平九郎翁略傳

スルナリ。抑モ *Lühdorfa* ハ東亞細亞ニ産スル Papilionideae 科ノ一奇
屬ニシテ、此屬ニ隸スル者、纔ニ一種アルヲ觀ルノミ。オベ
ルthur 氏 (Oberthur: *Etudes d'Entomologie*, Livraison
V, 1880, p. 12, tab. V, fig. 2) ノ説ニ據レバ、此蝶ハ露頭浦
鹽斯德港ニ近キわすこるズト稱スル一小嶼ニ於テ、ヤン
コウスキー氏 (Jankowsky) ノ捕集セル所ナリト云ヘリ。然
レモ該島ニ涯ラズ、黑龍江地方、殊ニ浦鹽斯德、及びよこ
らゐるふすくに産シ、又支那南部ニ在ルコトハ、エルース氏
ノ英國倫敦動物學會雜誌ニ登載セル、「黑龍江、南支那及
日本蝶類」ト云ヘル論文中ニ詳ナリ (H. J. Elwes; *Proc.*
Zool. Soc. London, 1881, part 4, p. 874)。[○]又此蝶ノ我日本ニ
産スルコトハ、エルース氏モ之ヲ説キ (Elwes, loc. cit.) 且アラ
イアー氏ノ日本鱗翅類目錄 (H. Pryer, *Trans. Asiatic Soc.*
Japan, 1883, vol. XI, p. 222) ニモ此品ヲ擧ゲ、「北海道ニテ
捕獲セリトテ、十年程前、織田氏余ニ惠マル」ト標セリ。爾
後同氏ノ日本蝶譜 (*Rhopalocera Nihonica* p. 5, pl. I, fig.
10) ニハ、「奇品ニシテ、余ハ未ダ此蝶ノ全備セル標本ヲ觀

ズ」ト記載セリ。

今余ハ此蝶ノ日本名稱ニ就テ、特ニ同好諸君ノ注意ヲ乞ハント欲スルニ先チ、姑ク我邦ニ於ケル動植諸書中、此蝶ノ圖說ヲ探索スベシ。飯室樂圃翁ノ蟲譜圖說ニハ、稍此種ニ類似セルガ如シト思ハル、品、無キニ非ザレトモ、如何セシ、該書ノ圖書粗略ナルヲ以テ、余ハ直ニ之ヲ檢出スルコト能ハザルヲ憾ムノミ。然ルニ今ヲ距ルコト四五十年前、尾張ノ本草家、吉田平九郎ト云ヘル人ノモノセラレタル、蟲譜ヲ閱スルニ、此蝶ノ精密ナル着色圖ヲ隔ケ、附スルニ左ノ略說ヲ以テセリ。曰ク

だんだらてふ

圖ノ如ク全身黒色ニシテ、背ニ細キ毛アリ、頭黒色、肩ニ黄色ノ細毛アリ、鬚黒シ、翅ニ黒斑及ビ淡黄色ノ條アリ、下翅ニ深紅ノ斑アリ、又留璃色ノ斑モアリ、黄色ノ斑、三個アリ、腹ニ淡黄ノ細毛アリ、足黒シ。

清明ノ節、中村周一持來ル。

右ニ掲ゲタル吉田翁ノ說ニヨリテ考フレバ、更ニ二個ノ要點アルヲ發見スベシ。即チ

(第一) Lühdorfa puzioiハ尾張ニモ産スルコト、
(第二) 此蝶ノ日本名ニハ、既ニだんだらてふノ稱ヲ用サアルコト

是ナリ。就中第二點ナル此蝶ノ和名ニ關シテハ、名和氏ノ論文中ニ記載セルモノト全ク異ナリ。蓋シ氏ノ論說中「岐阜蝶」ト附セラレシハ、氏が岐阜ニ於テ捕獲セラレシニ依リテ、然カ命セラレシニハ非ズヤ。果シテ然ラバ、余ハ更ニ此品ノ和名ニハだんだらてふヲ以テ通稱ト爲シ、ぎよふてふチ一名(synonym)トスル方、最モ穩當ナリト信ズルナリ。其故ハ、(一)此蝶ニハ四五十年前、既ニ吉田翁ノ所名アルト(according to the law of priority)且(二)此品ノ產地ハ雷ニ岐阜地方ノミニ限ラズ、尾州及ビ北海道ニモ之アルヲ以テ觀レバ、特ニ之ニ命ズルニ、岐阜蝶ノ稱ヲ擇バンヨリハ、一地方ニ關セザルだんだらてふノ名稱ヲ用フル方、却テ大ニ適當ナルガ如シ。蓋シだんだらてふノ名稱ハ、其羽翼ニアル斑文ノ條ニ據リテ、此名ヲ得タル者ナラン。

終ニ臨ミ、吉田翁ノ事ヲ左ニ附記スベシ。

翁ハ舊尾藩ノ士ニシテ、名ハ平九郎、雀巢庵ト號ス。動植物ヲ好ミ、殊ニ蟲類ヲ嗜ミ、御嶽、駒嶽ヲ始メ諸國高山ヲ跋渉シ、普ク奇種異品ヲ採集シ、又後園ニハ多ク植物ヲ栽培シ、以テ實驗ノ資ト爲セリ。鑒識精覈、其說クトコロ、悉ク實驗ニ因ラザルハ無シ。有名ナル本草家飯沼慾齋先生ノ如キモ、平素、翁ニ質問シ、ソノ著書草木圖說ヲ編輯スルノ際、翁ノ補翼スルトコロ、亦僅少ナラズト聞ケリ。

穴戸一郎曰く。予は未だ吉田氏の蟲譜なるものを閱覽したることなければ、其書は如何なる性質の者あるやを知らざれども。古人の他の圖譜記録等に於るか如く、見聞に隨て博く筆寫せし者には非ざる哉。而して伊藤氏は、同書に圖を掲げ略説を附しあるを以て、直に尾張も産すと結論せられたれども、「清明ノ節中村周一持來ル」の數字は未だ其産地を確定するに足らざるべし。岐阜は名古屋より十里餘にて、當今の如く汽車或は車馬の便なしと雖とも、猶ほ一日にして達すべし。されば中村氏の岐阜地にて採集し、其異品なるを以て持ち歸り、之を吉田氏に贈りたる

には非ざるか、又知るへからざるあり。尾張の地に住したる人の著書に記載しあれば、尾張にも産する者なりとの如き結論を、予は決して信する事能はず。然れども「持來ル」の三字は、尾張以外より持來りたるに非すとの確證あらざり、御教示あらんとを希望に絶へざるなり。

●發育學一斑(三三九頁) 飯 島 魁

第六章

孵卵第三日ニ起ル諸變化

孵卵第三日中ノ諸變化ハ最モ雜多ニシテ此日ヲ以テ最緊要ナリトス、先ヅ卵ヲ切開スルニ當リ第一ニ眼ニ着クハ蛋白ノ減少シタルコナリ、是レ蓋シ血液循環ノ發達ニヨリ直接ニ吸收セラルニ由ルカ或ハ又卵黃ヲ消耗シ而シテ之ガ爲メ生スル卵黃欠乏ハ蛋白ノ變化ニヨリ補充セラル、ニ由ルナリ、蛋白吸收ノ一旦始マリタル上ハ絶ヘス打續キテ三日目ノ終ニ至レハ其減少甚ダ著シ胚盤ハ今ハ大ニ擴ガリテ卵黃塊ノ半以上ヲ覆フニ至レリ、其中暗圍ハ範圍ノ最モ廣キ部分ニテ次ニ血管圍廣シ而シテ明圍ハ之